

# しゃかい ふくしほうじん むさし 社会福祉法人六三四

# 六三四たより



社会福祉法人 六三四 法人本部 〒187-0042 東京都小平市仲町364番地1

TEL 042-343-1895 FAX 042-346-0283 e-mail [musashi@musashi1895.jp](mailto:musashi@musashi1895.jp) HP-URL <https://musashi1895.jp/>

## 事業所一覧

ちいきしえんぶ せいかつかいごじぎょう  
地域支援部 生活介護事業

- ・生活リハビリセンター六三四
- ・生活リハビリセンター雅
- ・生活リハビリセンター絆

せいかつしえんぶ きょうどうせいかつえんじょじぎょう  
生活支援部 共同生活援助事業

- ・青粋ケアホーム
- ・彩ケアホーム
- ・お結び（短期入所）

そうだん しえんぶ  
相談支援部

- けいかく そうだん しえんぶ しょうがい じょ そうだん しえんぶ じぎょう  
計画相談支援 障害児相談支援 事業
- ・スカイサポートセンター

## 賀正

しゃかいふくしほうじん 六三四 りじちやう やまぐち あきら  
社会福祉法人 六三四 理事長 山口 明

2022年、明けましておめでとうございます。とはいえ、年末より「オミクロン」が来なくてもよいのに、53もの  
変異をして攻めて参りました。ただ、人間側もワクチン・ブースターと内服剤などで迎え撃ちます。ウイルス感  
染への抵抗力を強化するだけでなくウイルスに噛みつく「キラーT細胞」を活性するそうです。まあ、(楽観的  
すぎるかもしれませんが)速く人類に感染して、速くに減衰して毎冬季のインフルエンザ並に巷に潜むことを  
彼らは選択するのではないかと見ています。しかし、別の観点で、このコロナ禍は我が国で「弱い者、弱いシス  
テム」を露呈し、更にますます弱体化、貧困と差別においやる状況が生まれてきています。天平地異・疫病に  
強い社会とは普段から福祉、医療、保険を充実させ、科学者の声をきちんと聴く「質の高い民主主義社会」です。  
そんな社会にしないとイケないと痛感しています。この一年がそんな社会に向けて虎の如く力強い一歩を踏み出  
せますように、そして皆様にとって良い年でありますように。

## 「障害者の卒後と生活を考える会」

小平地域での学校卒業後の進路先となる活動の場は、1974年のあさやけ作業所からはじまり13年間で続々と誕  
生しました。背景には、当時あった障害幼児グループへの補助金制度の拡大適用で、東京都がはじめてあさや  
けに助成金を交付したことから始まった、都の補助金制度の充実があげられます。地域の関係者の期待と希望  
のなかで、小平市障害者福祉センターが1985年に開設されました。しかし、卒業生の受入れは市内の各事業所  
で余裕がなく、進路状況の厳しさは改善されませんでした。今も考える会で実施している「小平の障害児  
学級・学校の在学調査」の最初の調査を、1987年4月に実施しました。

調査結果は小学1年生から高校3年生の在学学生数177名で、高校生は61名でした。半数の30名の生徒が地域の作業所等に進路選択をすると毎年10名の受入れで、この数字をみても大変なものです。こうした状況のなかで、地域の関係者が情報交換をする目的で1987年7月に「卒後問題懇談会」を発足させました。この会が名称を変えて「障害者の卒後と生活を考える会」につながります。参加者は、事業所の職員、親の会、父母の会、小平特別支援学校で、月1回集まって不安や悩みを交流しつつも、地域の課題として取り組んでいくことは一致していました。地域の問題や課題を関係者で共有し、考えあうことの大切さを感じ考える会が人と人とのつながり、事業所間の連携を深めるための会となります。

(社会福祉法人ときわ会 あさやけ作業所 中川 幸夫様の記事より引用させていただきました。)

障害者の卒後と生活を考える会に参加させていただきます

10月に初めて参加し、普段お会い出来ない他施設の方々もあり、情報の共有や、家族会からの話もうかがえ、六三四で活かせる事柄が多く学びの機会となりました。小平市の障がい児の在学状況やご家族、他施設との交流、意見交換が活発になされている会と感じました。今後とも宜しくお願い致します。

生活リハビリセンター 絆  
大塚 英憲

小平市における団体の紹介：「小障連（こしょうれん）」

正式名称は「小平市障害者団体連絡会」といいます。この会は①市内の障がい者関係団体が、障がいの違いを超えて、障がい当事者、家族、事業者を含めて幅広く連携していこうという目的のため設立されました。②障がい者福祉の推進のために、学習会や啓発活動を行いながら、行政へ障害者福祉政策に関する提言活動をしていこうという2つの目標を柱に2006年に結成され活動を行っています。現在のメンバーは小平市内で障がい当事者団体・支援団体・支援事業所を含め52団体で活動を行っています。これまでにやってきたことについては主なもので①月1回（第4水曜日）の定例会・世話人会にて各団体との意見交換・情報交換・学習会・講演会・シンポジウム②小平市障がい者支援課と意見交換を行い、市の障害福祉予算への要望や提言③小平市障がい者福祉計画への提案④小障連の推薦による小平市自立支援協議会への委員派遣（3名）⑤小平市議会議員（厚生委員会）との意見交換・学習会 などに取り組んでおります。

社会福祉法人 六三四も4事業所（六三四・雅・絆・六三四ホーム）が小障連にはメンバーとして加わっています。小障連の特徴としては障がい当事者の方々を中心となり、スローガンにもある「気軽に参加出来て元気になれる活動をめざす」身体障がい・知的障がい・精神障がいなど、さまざまな障がい当事者の方々、障がいの程度に関わらず無理なく参加できるよう配慮を行っています。今年度はコロナ禍においてもZOOMやSkypeなどのオンラインによりワクチン情報やコロナ診察をする医療機関の情報交換など、月の定例会・世話会も途切れることなく行いました。最近ではコロナの感染が再拡大しており、いまだに地域の暮らしが脅かされている状況ではありますが会員の安心・安全を心がけ活動を行っています。

六三四ホーム  
伊藤 智和

## 日本一丸ポスト連合商店会

六三四では、日本一丸ポスト連合商店会に協賛し、ハロウィンイベントや、灯籠の制作、イベントの周知等の参加をしています。日本一丸ポスト連合商店会は、小平駅前大きな丸ポストができたのをきっかけに小平駅北口・南口の6つの商店街が合わさり連合商店会となり結成されました。

コロナ禍でも感染対策を重視し、SNSやLINE活用など、密を避けたスタンプラリーや外出をしなくても楽しめるフォトイベントなどを行い、夏・冬には六商店街を中心に売出し催事も行っています。

商店会の方だけでなく地域の方々が、業種に関わりなく、様々な立場の視点を生かし意見交換を行い、協同して地域を元気にしています。イベントを通じて、人との出会いや繋がりをきっかけに六三四に入職や事業へのご協力も頂いています。ひとつひとつの繋がりに感謝しつつ、これからも地域を大切に、協調性を育てていきたいと思えます。

生活リハビリセンター 絆  
河合 雄三

## 青年会議所

社会福祉法人六三四では地域団体とのつながりを大切にして事業活動を推進しています。六三四では、小平市・東久留米市青年会議所の活動の一部に参加協力をして、よりよい地域づくりを目指し連携をしています。青年会議所は、1949年から社会貢献団体として全国各地に設立されました。20歳から40歳の地域や日本社会をより良くする志を持った方々が参加しており、現在は、全国に708団体の組織となり、様々な企画を立てて明るい豊かな社会への実現に向けて活動を行っています。主体的に取り組んでいる活動に「わんぱく相撲」があります。遊び場の少ない子供たちや外へ出る機会が少ない現代の子供たちに、心身の鍛錬と健康の増進を目的として実施し社会全体に広まっています。

青年会議所に参加協力して、異業種の方と接点を持ち、意義のある活動に参加ができています。様々なアイデアや異業種との連携により、六三四事業領域の多角化ができるよう今後も取り組みを行っていきます。

生活リハビリセンター 雅  
伊藤 晋

## 令和3年11月26日（金）「社会福祉法人六三四に海くる号（移動水族館）が来た！」

外出が未だなかなか難しい状況下の中、利用者様に少しでも楽しんでいただきたく昨年11月26日（金）に、なんと移動水族館「海くる号」に来ていただきました。生活リハビリセンター六三四・雅・絆の利用者様、皆様とても楽しんでくださった様子でした。今後も様々な企画を考え、取り組んでいきたいと思えます。葛西臨海水族館のスタッフの皆様ありがとうございました！



### 今後の予定

2月8日（火）	メンバー懇談会（雅）	2月23日（火）	天皇誕生日・開所日
2月10日（木）	メンバー懇談会（六三四）	3月11日（火）	メンバー懇談会（六三四・雅・絆）
2月11日（金）	建国記念の日・開所日 メンバー懇談会（絆）	3月21日（月）	春分の日・開所日
2月17日（木）	お楽しみ会（絆）		
2月18日（金）	お楽しみ会（六三四・雅）		

（毎週月・水・木曜日）  
 （毎週水・金曜日）  
 （毎週月～金曜日）

個別理学訓練（寺田PT）  
 個別言語訓練（小林ST）  
 個別言語訓練（鳴海ST）

### 編集後記

この度二度目の新聞の編集をさせていただきました。今年の初め妻の実家に行くと人生初めての吹雪に見舞われるという驚きの新年を迎えました。雪と同じように、文章を組み立てる事もまだまだ不慣れな中、今回も皆様に助けて頂きなんとか発行に、こぎつけることができました。さて今回、社会福祉法人 六三四が、関わらせていただいている外部団体との繋がりについてを主とした内容で作成させていただきました。改めて、学び知ることが多く今後もより自分自身深く関わっていきたく感じました次第です。

最後に、ここまで読んで下さった皆様、ご協力いただいた皆様本当に、ありがとうございました。

生活リハビリセンター 絆  
 犬塚 英憲